

i-Communication System

社内音声ネットワークのIPテレフォニーへの転換を「Aspire」が実現 通信コストの削減、そして技術サポートの「質の向上」にも貢献

CASE
STUDY

オリックス・レンテック株式会社 様

<http://www.orixrentec.co.jp/>

「IPテレフォニー」の導入が本格化する中、多くの企業が通信コストの削減や生産性の向上を目的にIPネットワークを活用したシステム導入に取り組んでいます。レンタル業界のリーディングカンパニーであるオリックス・レンテック様でも、社内音声通話のコスト削減を目的に、2004年9月に全国27事業所をIPネットワーク網で繋ぎ、社内音声ネットワークのIP化を実現しました。このVoIPソリューションのゲートウェイ装置として導入されたのが、オフィスコミュニケーションゲートウェイ「Aspire」。同社は今後、既存PBXの音声ゲートウェイとしての利用から、PBXを統合したIP-PBXへとステップアップしていく考えです。

企業概要

ユーザープロフィール

社 名：オリックス・レンテック株式会社

所 在 地：東京都品川区北品川5-7-21

代 表 者：代表取締役社長 馬着 民雄

設 立：1976年9月

従業員数：945名

拠 点 数：27拠点

事業内容：コンピュータ、電子測定器などのレンタルおよび中古販売／コンピュータ製品の販売、サポート／校正受託サービス、計測サービス、EMC試験サービス



オリックス・レンテック様の本社ビル

導入システム

オフィスコミュニケーションゲートウェイ「Aspire」 27セット

導入背景・目的

27拠点間の音声通話のVoIP化に「Aspire」を導入し 通信コストの削減と業務生産性の向上を実現したい

1976年、日本初の測定機器レンタル会社「オリエント測器レンタル株式会社」としてスタートしたオリックス・レンテック様。コンピュータや電子測定器などのハイテク機器のレンタルサービスを中心に、技術サポートやお客様が保有している測定器の精度管理を行なう校正受託サービスなどのエンジニアリングサービスも展開。約3万種もの取り扱い機種、約40万台の保有台数を誇る、レンタル業界のリーディングカンパニーです。

同社は国内27カ所の事業拠点を活用して、“お客様が必要なとき、最適な先端機器を、ご要望に応じて”提供していますが、早い時期から拠点間通話に専用線網を導入して通信コストを抑えるなど、そのスケールメリットを活かした通信インフラを整備してきました。そしてこのたび、さらなるコスト削減を目指して拠点間の音声通話のVoIP化を決定。NECインフロンティアのオフィスコミュニケーションゲートウェイ「Aspire」を導入して、国内拠点間のIPネットワーク網を構築されました。

VoIPの導入について、総務部総務チーム副部長 井村正人氏は次のように説明されています。「当社が音声VPNによる専用線網を導入したのは1980年後半ですが、当時から拠点間の通話が全通話の半分以上を占めており、通信料金の経費削減は重

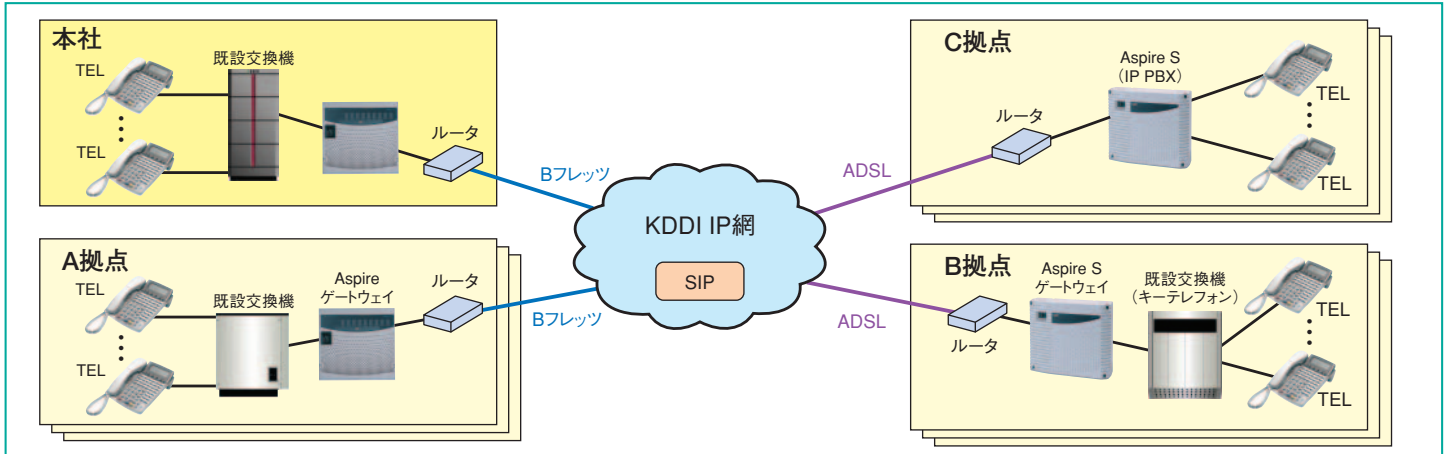
要課題のひとつでした。その後約20年の間にさまざまな経費削減策を実施してきましたが、業務拡大に伴う拠点の拡充や回線数の増加などによる通信コスト増加の問題が再び浮かび上がってきたのです。その解決策として今回IPテレフォニーのメリットをご紹介いただき、検討の結果、導入を決定しました」。

しかし導入の前提として、従来の拠点間通話の機能や使い方を変えないことや、既存設備の有効活用など、クリアすべき課題が多数ありました。特に、従来の拠点間の内線通話で使っていたダイヤル番号をそのまま使うことが一番の課題でしたが、この課題を「KDDI-IPフォン セントレックス(タイプ1)」の採用でクリア、2004年2月にVoIP化を正式に決定しました。そのゲートウェイ機器としてNECインフロンティアのオフィスコミュニケーションゲートウェイ「Aspire」が選ばれ、同年9月には本社、支店、技術センターなど全国27拠点で本格運用が開始されました。



本社に導入された「Aspire」本体。支店や技術センターなど、全国27拠点をつなぐVoIPネットワークを実現している

システム構成



導入効果

通信コストは導入前より約3000万円削減
技術サポートの「質の向上」も

「Aspire」の導入で、事業所間のVoIP化を実現したオリックス・レンテック様。井村氏は「当初の期待どおり、通信コストを大きく削減することができました。導入後のランニングコストは年間ベースで約3,000万円の削減効果を見込んでいます。また、初期設備投資分も数カ月で回収できる見通しです」と、明確な数値となって示すことのできる導入効果について大いに満足されています。

また、導入前における電話の使い勝手の良さを継承しながらVoIP化できた点については、「習慣化された業務手順の変更が不要でしたから、社員への教育といった、導入にあたっての二次的なコストも低減できたことになりました」という評価をいただきました。

さらに、「Aspire」の通話音質についても高い評価をいただいています。同社では、カスタマーサポートの一環として、東京や神戸の技術センターを技術的問い合わせ窓口としても機能させており、お客様からいただく問い合わせのうち技術的な内容については当該の技術センターに転送し、迅速な対応とお客様の問題解決に努めています。しかし、従来の専用線網はアナログ回線だったこともあり、内線網を経由した外線転送では音質の劣化が激しく、通話中のノイズが気になることもあったといいます。「お客様から技術的な問い合わせをいただいたときも、技術センターの番号をお伝えしてお客様の方からかけ直していただくようなこともありました。しかし『Aspire』の導入後は安心して技術センターに転送でき、お客様に迅速で質の高いサービスが提供できるようになりました」（井村氏）。



今までと同じ端末、そして同じ使い勝手でありながら、耳障りなノイズのないクリアな音質を実現。拠点間で転送されてもクリアな音質が維持されている

将来の展開

既存PBXの音声ゲートウェイとしての利用から、
将来はPBXを統合したIP-PBXへとステップアップ

「Aspire」は、企業のコミュニケーション・インフラを段階的に拡張していきけるフレキシビリティを有しています。同社は導入を決定した理由のひとつとして、この将来における拡張性の高さを挙げています。同社においても、まずは既存のPBX設備を有効活用しながら、既存PBXの音声ゲートウェイとして「Aspire」を活用。新旧の技術を共存させて、IPテレフォニーのメリットを享受できる環境が実現されています。チャンネル数も、接続回線にBフレッツを利用することにより、一回線でおおよそ20ch以上を収容でき、将来における回線数の増強にも十分対応できています。そして今後は、このIP網を増強して「Aspire」をIP-PBXとして使用するなど、事業計画に合わせてフレキシブルに拡張させていくことも視野に入れています。

「各拠点では従来のPBXとボタン電話装置を有効活用するために、今回は『Aspire』をゲートウェイとして導入しています。将来的にはこれらのPBXとボタン電話装置の更新時期に合わせて各拠点のPBX機能を順次『Aspire』に取り込んでいき、IP-PBXとして機能統合させていくことも検討しています」とTCOの削減も視野に入れた中長期的な展望をお持ちです。また、今回のVoIP化を外線通話のコスト低減の好機ととらえ、現在は拠点間通話だけで使っているIP電話網を、外線通話でも活用していくことも検討しているといいます。

最新のIP技術を積極的に採用し、お客様に充実したサービスを提供し続けているオリックス・レンテック様の、今後のご活躍に期待が高まります。



総務部 総務チーム
副部長 井村 正人氏

オリックス・レンテックは、「所有」から「利用」というパラダイムシフトを企業に提案し、多くのお客様からご賛同を得るとともに、取り扱い機器の拡充と良質なサービスの提供に努めてきました。特に、最先端技術については意欲的に情報収集するとともに、業務に役立つものはお客様に先駆けて積極的に導入し、事前評価したうえで提案しています。今回のIPテレフォニーについては、通信コスト削減や業務効率化だけでなく、お客様へのサポート業務にも効果が上がっています。今後も最新技術の積極的な取り込みを通して、お客様に満足を提供していく考えです。

※このパンフレットに記載されている会社名および商品名等の固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

NECインフロンティア株式会社

国内営業事業本部

〒101-8532 東京都千代田区神田司町2丁目3番地

TEL.03-5282-5823 FAX.03-5282-5925

<http://www.necinfrontia.co.jp/>

お問い合わせ、ご用命は下記へ



環境を考慮して大豆油インキを使用しています。



古紙配合率100%再生紙を使用しています